

# さわやかトカラ情報

十島村教育委員会  
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号  
TEL 099-227-9771

## よろしくお願いいたします

十島村教育長 有村 孝一

十島村の皆さんこんにちは、8月18日に教育長に就任いたしました有村孝一でございます。私は、今から26年前の平成元年から3年間、派遣社会教育主事として、十島村教育委員会に勤務いたしておりました。在職しました3年間に様々なことを経験することができました。中でも、第1回文化の祭典「セブンアイランド89」を中之島で開催した折、早く船を出さないとうねりが大きくて小宝島に接岸できないということで、閉会式のレセプションが中止になったこと、牧園町の子どもたち50人を連れて中之島で一週間交流キャンプをした後、帰りの船が台風巻き込まれて、口永良部島の島影に一泊したこと、まさにこれが十島の自然なのだ、その厳しさを痛感すると共にやりがいも感じたことを覚えております。

一方で、伝統芸能が豊富な十島村です。口之島の「狂言」は数百年にわたって、口頭で継承されてきたすばらしい文化で、大変感動しました。また、島外不出の悪石島のボゼを、村の文化祭・長崎の九州地区民俗芸能文化祭へ出演させていただいた時の関係者の方々の決断には、今も感謝しております。その他に、宝島女神山、タモトユリやトカラ馬等の貴重な文化財も後世に引き継いでいかなければならない財産です。

また、日本最後の「はしけ」に生まれて初めて乗り、着いた小宝島で、島民の皆さん方のおもてなしの心と笑顔は、今も心に焼き付いています。

また、当時の諏訪之瀬島分校の児童・生徒が全員ピアノ演奏ができるということで霧島国際音楽祭のファミリーコンサートに全員で参加したこともいい思い出であります。そのいずれの時にも、各島の皆様に助けていただいたという記憶があります。とてもとても感謝しております。まだまだたくさんありますが、今後機会がある時に、皆様とお話できたらと思います。

十島村を離れてからも十島村のサポーターとして、新聞記事を集めたりしてきました。その数約300近くです。そんな思い出深い十島村に再び帰って来ることができました。今回は、あの時と立場は違いますがやる気と意欲はあの時に少しも負けていないと思っています。船も1090トンの「としま」から1391トンの「フェリーとしま」に変わりました。この間に十島村は発展し、大きな変貌を遂げてきていると思います。その様子を見ることもとても楽しみであります。どうぞよろしくお願いいたします。

## ☆二学期に向けて☆

まもなく、長い夏休みが終わります。休み前に立てた計画は実行できましたか。学校ではできない体験をいくつもできましたか。何か新しい発見がありましたか。児童・生徒のみなさんは、きっと貴重な体験を通して夏休み前より少したくましく成長したことと思います。

ところで、休みが終わり、規則正しい学校生活が始まると、体に不調を訴える子どもたちが出てきます。長い休みの生活の乱れから、9月初めには、精神的にも体力的にも疲れやすかったり元気がでなかったりします。はつらつと二学期を迎えるためにも、8月末までには、規則的な生活習慣を整えておきましょう。

そのためには「早寝・早起き・朝ご飯」が基本です。保護者や里親の方々にも御理解いただき、子どもたちがいいスタートを切れるようにしたいものです。



## シリーズ——十島の学校にやってきて



小宝島小学校 5年 有馬 蓮

2013年の3月に、転校生が来ると教頭先生に言われました。春休みの終わり、僕は小宝島へ帰ってきました。そこには、転校生の絵夢さんが来ていました。絵夢さんは、国語が得意で、走るのも得意で、本当に僕と真逆の性格です。分からない漢字があったら教えてくれて、短距離走や長距離走では一位になり、すごいなと思います。絵夢さんが来て、去年より大分にぎやかになったと思います。僕が3年生の時は、一人でちょっとさびしかったけど、勉強は早く進みました。4年生では二人になり、さびしくなくなったけど、勉強のペースを友だちと合わせないといけなくて大変でした。でもやっぱり、二人のほうが楽しくていいなと思います。絵夢さんとの一番の思い出は、よくけんかをしたことです。絵夢さんのことを他の人に言ったら、すぐおこってけんかになったり、テストの点数くらべでけんかになったりしますが、いつも笑ってけんかはおきます。一人ではぜったいにできないけんかや仲直りもできるようになり、よかったです。小宝島に来て2年目。前より小宝島のがよく分かり、友だちと仲がもっとよくなったのでよかったです。5年生では、次の3つの目標をがんばろうと思います。一つ目は、忘れ物をへらすことです。二つ目は、計算をもっと速くすることです。三つ目は漢字をもっと覚えることです。漢字テストで百点をたくさんとりたいです。毎日楽しくがんばっていきたいです。

## 絆

### シリーズ——山海留学生として学ぶ

鹿児島工業高校1年 永井 義隆  
(平成26年3月平島中学校諏訪之瀬島分校卒業)

この夏、僕は中学生として最後の夏休みを過ごしました。主なものとして、中体連のバドミントン大会、工業高校と城西高校の体験入学などがありました。

バドミントン大会では、練習の成果を出そうと頑張りましたが、6対21で負けてしまいました。この時は、部活動のことに夢中で、来年は高校受験だという実感は湧きませんでした。この後の2つの高校の体験入学で、心に変化が現れました。第一希望の工業高校の体験入学では、II類の建築科に行きました。始めに、家の骨組みを組みました。木材の向きや番号、使う道具など多くのことを知り、集中して取り組むことができました。次に、測量器を使って点と点からの正確な距離を測りました。使い方に慣れず、結構時間がかかってしまいました。これらの経験を通して学んだことは、自分の建築家になるという夢は、簡単には叶わないということでした。と同時にまた、楽しみも感じられ、建築家になるために工業高校へ行きたいという気持ちが強くなりました。さらに、体験入学に参加したことで、受験生という自覚が強くなってきました。

これから、受験という名の試合が待っています。この試合に勝つために、二学期、三学期を大事に過ごしていきたいです。そして、高校に合格し、建築家という夢に向かっていきたいと思っています。

## ◇十島村立学校の運動会期日◇

9月から10月にかけて小・中学校、分校の運動会が開催されます。期日は、下記の通りです。

口之島小・中学校	10月12日(日)
中之島小・中学校	10月11日(土)
平島小・中学校	9月27日(土)
諏訪之瀬島分校	9月20日(土)
悪石島小・中学校	9月14日(日)
小宝島分校	9月28日(日)
宝島小・中学校	9月21日(日)



## 【子どもたちの作品①】

### 職場体験学習を終えて

中之島中学校1年 平泉 開翔

僕は、あいさつを大きな声でするようにしたいと思っていましたが、初日は緊張して大きな声であいさつをすることができませんでした。しかし、二日目や三日目は大きな声であいさつし、接客のマナーも守って働くことができました。また、職場体験学習を通して、働くことの意味について知ることができ、働いている人の大変さも知ることができました。



「バッハとピカソ本店」での僕の仕事は、出来上がったクッキーの包装のシール貼りでした。クッキーの袋を折り曲げ、シールを貼って箱に並べる細かく難しい作業でした。一日目は初めてだったので、とても時間がかかりました。二日目、三日目とあきらめずに黙々と作業を続けていく

と、だんだん慣れてきて最後には店員さんにもほめられるような仕事をすることができました。僕は、この職場体験学習で学んだ「あきらめない」という心を、日々の生活の場面で活かせるよう努力していきたいです。

## 【子どもたちの作品②】

### 空のわたあめ

宝島小学校3年 寺田 碧海

(4月19日 南日本新聞「子供のうた」に掲載)

きれいな青色のそら  
真っ白なふわふわのわたあめ  
どんな味がするのかな  
食べてみたいな  
きつとあまいバニラ味  
にじがかかると  
イチゴ味 ソーダ味 メロン味 レモン味  
いろんな味になるんだろうな



## 十島村の小・中学校からのメッセージ

悪石島小学校 養護教諭 永山 千明

「今日の給食は何か。」悪石島に赴任し、給食のおいしさに毎回感激している。毎回どこかのお店のランチを食べているような気分である。焼きたてのパン、子どもたちと収穫した大名筍を使った炊き込みご飯。手作りデザート。いい香りとともに、毎回幸せをかみしめていただいている。

初めての船旅。初めての土地。初めての島での生活。たくさんの「初めて」をもった赴任だったが、あっという間に2年目を迎えた。島民は58人。しかし、今までのどの場所よりも地域の方と交流し、言葉を交わしている。また、その生活に楽しさを感じている。最初は、この人数で島の生活が成り立っていることに驚いた。しかし、みんなで協力し合って生活している悪石島では、何かあったら島民が声をかけ、助けてくださり、お店はないが不自由もない生活をさせていただいている。

悪石島での生活は、「人間は一人では生きていけない。」という当たり前の気持ちを思い出させてくれた。「困っていることはない？」と気にかけてもらえる心強さ、そっと手を差し伸べてくださる優しさ。島に帰ってきたら「お帰り。」と迎えてくださる温かさ。何ともいえない心地よさを感じる。顔が見えない、誰か分からない、やっもらって当たり前と、そこに感謝の気持ちを持っていただろうか。そんな「当たり前の生活」にたくさんの方が係わって支え合って生きていたことを改めて実感することができている。台風の影響で、まだボゼにも出会っていない。イルカの大群にも、グリーンフラッシュの瞬間にも出会っていない。

まだ、島民や職員に助けをもらってばかりだが、ガソリンをドラム缶から給油できるようになった自分をたくましく思いながら、まだ経験できていない出会いを求めて、私の悪石島での生活は続いていく。

教職員仲間である「あなた」への

私からのメッセージ

縁あって、この土地に巡り会えました。出会いのすばらしさを感じながら、島での生活を楽しんで欲しいです。